

❖ 買い物リストの文法

先日、私の教え子の一人が、教室で私からの何かの質問に対して、“apple”と答えました。しかし、英語に“apple”などというものは本当は存在しません。

その学生はすごく優秀な学生ではありますが、彼の答え方は、日本人学習者の典型的な誤りを示しています。ですから、ここでの私の役割は、彼を責めることではなく、彼の誤りを矯正し、英語に“apple”なるものが存在しないことを説明することです。

それを、彼と教室の他の生徒に納得してもらうためには、どう説明すればよいだろうかと一瞬悩みましたが、そのとき偶然、ポケットに買い物リストが入っており、それを引っ張り出して黒板に書くというアイデアが浮かびました。以下がそれです。

tomatoes
lettuce
carrot
biscuits
bananas
potatoes
jam
2 boxes of tissues
pineapple or apples?
2 packets of butter
milk
grapes

日本語訳はつける必要もないと思います。

私たちが買い物リストを作るとき、買いたい物を紙に書きとめるわけですが、その書き方はほとんどの場合、かなり急いでいるため、ちゃんとした書き方になっておらず、しかも短く省略して書くことのほうが断然多いでしょう。しかし、それでも、最低限必要な情報が入っているように注意して書こうとするはずです。

また、買い物リストは単なる「単語」のリストではありません。それは「品物」のリストであり、そのリストをもとにして、私たちは買おうとする物について相当量の情報を得るわけですから、そして、実際に店に行って、そのリストを見ながら買い物をするわけですが、そのさい、それらの品物をどのように買えばよいか調べるには、まず**買い物リストの見方、すなわち「買い物リストの文法」**がわかっていなければなりません。

それ自身の前に何もついていない可算名詞（例：lettuce）は、買い物リストに書かれていれば、“a”か“one”が前にあるとみなされます（a/one lettuce）。“a”か“one”をつけなくとも、そこにあるものとみなされるわけです。

同様に、不可算名詞の場合は、前に何も書かれていなくとも、“some”が前にあるとみなされます（例：jam → some jam）。複数形の可算名詞も前に“some”があるとみなされます（例：bananas → some bananas）。

何を買うのかたずねられたら、私はリストを見て、「買い物リストの文法」を「正しい英語の文法」に変換しながら答えます。すなわち、